

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	幼児教室とことほげっと		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 6日		2024年 11月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2024年 11月 6日		2024年 11月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 12月 2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援と集団活動のバランスがとれた活動内容になっている。	一人ひとりの発達段階やニーズに合わせた「個別支援」を行いながら、他の子どもたちと関わる「集団活動」の場で、子どもが社会性やコミュニケーション力を自然に身につけられるよう支援を行っています。	子どもの発達の過程や特性などに応じたニーズの把握に当たっては、本人支援の5領域の視点を踏まえた支援プログラムを提供していく。
2	成長・発達の過程において様々な出来事や状況を保護者の気持ちを受け止めながら伴走した家族支援になるよう努めている。	家庭でのサポートが継続できるよう、保護者へのフィードバックや相談対応も充実するよう心がけています。家庭での接し方や育児のヒント、具体的な対策について情報提供を行い、保護者が安心して育児ができるよう支援を行っています。	子どもの発達状況や特性の理解に向けた、ペアレント・トレーニングの実施する。
3	成長・発達に合わせてクラス編成を行いながら継続的な支援を目指しています。	親子クラスから未就園児クラス、そして就園時クラスへと環境の変化や成長に応じた柔軟なサポートと、短期間で成果を求めのではなく長期間にわたり継続的な支援を行っています。	保育園、幼稚園などの並行利用先と支援内容の共有をしていく。就学や就学後の移行先の選択についての相談援助を行う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一部屋のみのため常に環境の工夫が必要。	安全に配慮した設備や遊具を整えているが、体を大きく使った活動ができるスペースや集中して取り組める静かな個室などの確保が難しい。	子どもたちにわかりやすく構造化することや落ち着く場所を作る。教材や遊具の整理整頓に努める。散歩や戸外遊びを積極的に取り入れる。
2	他事業所や他機関連携の機会が少ない。	保育園、幼稚園との情報共有の機会を積極的に設けているが、その他の機関との話し合いの場が少なく、児童発達支援を終了した後の支援体制の構築が難しい。	障害児相談支援事業所や他の事業所との交流を行う。
3	地域社会への参加に向けての話し合いなどの機会がない。	保育園、幼稚園との並行利用は多いが、園との情報共有にとどまり、支援会議などにならないことが多い。また他の子どもとの交流などの取り組みを進めていくことが難しい。	子どもが通う保育園、幼稚園などとの連携や障害児相談支援事業所との連携を図る。